

予 算 要 求 資 料

令和 4 年度 3 月 補正 予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：園芸特産物対策費

事業名 ぎふ花と緑の振興促進事業費補助金（R5分）

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産園芸課 花き振興係 電話番号：058-239-3163（直通）

E-mail：c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 18,000 千円 （現計予算額：0 千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	18,000	0	0	0	0	0	0	0	18,000
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

- ・令和 2 年度に国際園芸アカデミー有識者会議から、花と緑の産業を活性化させるために業界の壁を越えて産学金官が連携する「ぎふ花と緑の振興コンソーシアム」の設置について提言を受けた。
- ・令和 3 年度に、花きの利活用の促進と、消費者ニーズを捉えた花き商品の開発等を図るため、ぎふ花と緑の振興コンソーシアムを設立した。
- ・令和 4 年度に清流の国ぎふ花と緑の振興センターを開所し、花き生産者等と異業種企業との連携を促進しており、新商品・新サービス開発等の 1 3 件の支援要請がある。
- ・花きは産地による差別化が図りにくいため、コンソーシアム会員等が連携した「ぎふオンリーワン」の商品づくりを進め、安定した花の需要を拡大する必要がある。

(2) 事業内容

生産者等が異業種企業等がワーキンググループを組み、課題解決に向けた研究・実証事業に要する経費や成果物の企画や商品 P R 費などの活動支援への助成

(3) 県負担・補助率の考え方

・花き業界全体の活性化と県の花き生産の振興に取り組むために設立しするワーキンググループ活動に対し、県が負担することが妥当である。

(4) 類似事業の有無

岐阜県IoTコンソーシアム
次世代エネルギー産業創出コンソーシアム

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	18,000	ワーキンググループ活動費補助金
合計	18,000	

決定額の考え方

--

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・県立国際園芸アカデミー有識者会議報告書 (令和3年度)
- ・清流の国ぎふ花き振興計画 (令和3年度～7年度)

(2) 国・他県の状況

無

(3) 後年度の財政負担

県内生産者等が異業種団体と連携し、花と緑の振興促進する取組みであり、県が負担することが妥当である。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	ぎふ花と緑の振興促進事業費補助金
補助事業者 (団体)	県内花き生産者と共同して県産花きを使った新商品・新サービスの開発などに取り組む事業者 (理由) 花き産業の振興を図ることを目的とした新商品・新サービスを開発を行う
補助事業の概要	(目的) 本県の花き振興のため、花き生産者等と協力して新商品・新サービスの開発に取り組む事業者を支援する。 (内容) (1) 調査活動 ・市場調査 (消費者動向等)、先進事例 (優良事例) 調査、事業可能性調査 (2) 新商品開発活動 ・新商品開発に向けた原材料・試作等の分析、必要な実証機器の導入・リース、試作品の製造 (3) 新商品の製品化・事業化活動 ・製品のモニター調査、新商品の試験販売、パッケージデザイン制作 (4) 販路開拓活動 ・商談会・見本市等への出展、PRイベント・PRキャラバンの実施、ECサイトでの制作及び運営、新商品や県産花きの魅力を発信するホームページやパンフレットの制作 (5) 新品種、新品目等の研究活動 ・新品種、新品目、新素材、新たな栽培方法等の調査研究
補助率・補助単価等	定額・定率・その他 (例: 人件費相当額) (内容) 新商品・新サービスの開発にかかる費用 (補助対象経費の3分の2以内かつ上限3,000千円) (理由) 開発する事業内容によって変動するため。
補助効果	県産花きの需要拡大
終期の設定	終期 令和5年度 (理由) 花き消費の減退と低迷が依然続き、県産花きの生産額が減少傾向にあるため、新たな需要拡大のために異業種等と連携した取り組みが必要。

(事業目標)

・終期までに何をどのような状態にしたいのか
・新商品・新サービスの開発により消費者の購買意欲を喚起し、花きの新たな需要を開拓する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R2)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R5)	達成率
連携開発事例				4	8	50%

補助金交付実績 (単位：千円)	H30年度	R元年度	R2年度

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	<p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和3年度	<p>令和5年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和4年度	<p>令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	産官学金の異業種が互いに連携することで、県産花きを利用した新商品・新サービス等の開発が促進される。
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</p>	
(評価) 3	令和7年度までに新商品・新サービスの開発を20事例を目標としているが、学生のアイデアを生かした商品開発をする企業もあり、予想以上の成果が得られている。
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 2	学生のアイデアなどを、異業種との連携により商品化することで、事業の効率化が図られている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項
開発された新商品・新サービスの定着を促進させる。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのよう
に取り組むのか
本事業により新商品・新サービスを開発し、花き産業の振興を図るため、継続する必要がある。